

平成20年度 第2回新宿区次世代育成協議会・部会まとめ

平成20年11月21日(金)午後3時～5時
区役所本庁舎6階 第4委員会室1 開 会
2 議 題

(1) 資料説明

資料 「子どもの虐待防止と地域の役割」に対する提言(案)

(2) 協議

提言(案)について

はじめに

- ・相談件数について書かれているが、匿名性のある電話相談などについて、もう少し詳しく触れた方が良いのではないかな?

提言1について

- ・子どもに対する声かけ運動には、難しいところがあり、「変なおじさんが声をかけてきた」というようなクレームも聞かれる。地域の子ども達に、地域のおじさん・おばさんとして知られることも大切ではないか。
- ・例えば、箆笥町青少年育成委員会では、朝の声かけ運動を実施している。校長と一緒に学校の前で挨拶をしたり、自宅の前で子どもに声をかけることをしている。
- ・虐待に至るきっかけとして、子育てにゆとりが無くなることが挙げられる。1から10まで自分だけで子育てするのではなく、ゆとりがなくなる前に、辛くなったら、遠慮なく助けを求めることも大切である。
- ・自分だけで子育てを負うのではなく、人に助けを求めることが当たり前になるといい。
- ・親や大人が子ども達のことを学ばなければならないと思う。
- ・子どもが守るべき存在として認識され、子どもの安全が言われ過ぎている感じがする。
- ・子どもをありのままに見ていくこと、他の子どもと比べないで見ていくということが大切ではないか。
- ・子どもが何をしたいのか?子どもの視点が抜けているのではないかな?
- ・子どもを誉めるだけでも、叱るだけでもいけない。
- ・「ありのままのあなたでいいよ」という事を、子育ての中で、親が子に伝えていくことが大切ではないか。
- ・「公園デビュー」という言葉があるが、最近、公園を利用している乳幼児親子を見かける機会が少なくなったように思う。公園の活用ということをもっと考えた方がよいのではないか。
- ・公園の利用が減っているのだとすれば、その理由のひとつとして、乳幼児親子の居場所、子育て支援センターのような場所が充実して来ていることが考えられるのでは。
- ・「楽しい子育てのための環境づくり」という表現ではなく、「地域の中で安心して子育てができる環境づくり」の方がよいのではないかな。

提言2について

- ・働く女性の問題が抜けている。安心してお産をして子育てするには、職場環境の整

備が欠かせない。男性への働きかけも必要である。子育てに男性が参加すること、関心を持つこと、支援をすることが大切。

- ・ひとり親家庭のことが書かれているが、多胎児の出産、若年層の出産、高齢出産等の場合も、虐待に向かうリスクが高い気がする。
- ・乳幼児とのふれあいの事が書かれているが、「異年齢集団」との関わりを持つことの大切さを感じる。
- ・食育の問題。芋掘り等で、泥の中から食物が出てくることが受入れられない親子がいる。潔癖主義。汚れに対する免疫を着けて、寛容に受け入れられることも大切では。
- ・虐待が起こるひとつのファクターとして、「子育ては～ねばならない」という思い込みがあると思う。
- ・大人が準備し過ぎた環境の中で子育てをしている現状がある。逆説的ではあるが、良い環境を考え過ぎているのではないか。

提言全体について

- ・先日、小学校の音楽会で、子どもが会場内で大騒ぎをしている状況があった。しかし、誰も注意する大人が居なかった。地域に恐いおじさんやおばさんが居るということ、注意するということが大切なこと。
- ・皆で子育てしましょうということが共通認識になるといい。
- ・一時保育をやって欲しいという声をよく聞く。子育てのひろばはたくさんあるけれど、母親には子どもからちょっと離れたいという思いがある。これらのニーズに対して、「助けてあげたいわ」と思うおばあちゃん達の力を何らかの形で活用できないか。ファミリーサポート事業だと、研修を受けたりというハードルの高さがある。もっと、気軽に地域の力を活用する手段は無いものか。
- ・新宿区のファミリーサポートの利用実績は、23区でも第2位。ファミリーサポートの提供会員の資格があれば、実際に色々な場で保育ができる。
- ・きちんとした研修を受けていないと、子どもを預けられるかどうか不安があると思う。
- ・協力家庭の協力で、ショートステイを小学生まで行っているが、協力家庭と地域の方達をつなげたい。
- ・子育てに関わる情報の発信について、区のホームページは大変検索しづらい。携帯電話からもアクセスできない。
- ・広報のあり方についても、新聞が取れない人もいるため、バンフレットや区報などを、銭湯やコンビニエンスストアに置くことも有効ではないかと思う。
- ・情報が探しにくく、必要なサービスに辿り着けない。入口はシンプルでいいと思う。子ども家庭支援センターで、複合的なサービスをしているのはわかるが、子ども家庭部ができたのだから、サービスの仕分けのような役割をすることはできないものか。
- ・「子どもに関する何でもやる部です」というような窓口を作ることはできないのか。
- ・区役所の敷居の高さはあると思う。もっと、気軽に相談できる場が必要である。
- ・ネットワークがきちんとしていること、情報やサービスに簡単にアクセスできることが大切である。
- ・全般的な問題を抱えていて、どういう状態かわからない相談にも対応できる体制が必要である。